

第1回（仮）ながさき若者ミーティングの実施結果

1. 日 時：令和3年6月15日（火）19：00～21：00
（希望者のみ22時まで延長して実施）
2. テーマ：「今の長崎に感じていること&未来の長崎に期待すること」
3. 方 法：オンラインビデオ会議システム「Webex」により実施
4. 参加者：20名
 - ・公募メンバー：9名（社会人3名、学生6名）
 - ・まちづくり等に携わっているメンバー：6名（社会人4名、学生2名）
 - ・県職員メンバー：4名
 - ・サポートメンバー：1名

5. 主な意見

【長崎に対する県民・県外からのイメージ】

- ・長崎と言えば「」という強力なものがない。ネタはたくさんあるが、その反面フォーカスできてない。人口が減少しているというネガティブなイメージもある。
- ・長崎市内は発展していくと思うが、そのほかの地域も含めて県全体が活性化していったほしい。
- ・長崎の若者が長崎のことをわかっていない、知らないのではないか。
- ・アルバイト先で接する人達（高齢者）から「長崎は老後に暮らすのにちょうどいいまちで、若い人にはつまらないのによく（県外から）長崎に来たね」と言われる。
- ・大人が長崎には何も無いと言うので、子供も何も無いと思って育つ。
- ・進学で県外から長崎へ来た。来る前は友達等から長崎についてマイナスイメージ（不便だし何も無い）を言われたが、来てみたら意外と都会で住める。交通の便もそんなに悪くない。行政側も若者もまだ気づいていない長崎の魅力を打ち出してはどうか。

【生活・雇用環境】

- ・歴史や観光素材がたくさんあっても、働き口が増えるわけではないので、長崎に残りたくても残れない。地元への愛着があっても、自分がやりたいことを優先する。
- ・県内に8大学があるが、学びたい学部（法学、文学など）や服飾を学ぶコースなどがなくて、県外に出ていくケースが多くある。
- ・長崎は家賃、物価が高いが福岡より時給が安かったりする。生活環境は大事で、長崎の魅力と生活環境（お金、暮らし）を天秤にかけると生活環境を優先してしまって、結果、人口流出しているのではないか。

- ・地元企業を育成したり大企業を誘致するなどして、若者が就職したくなる働く場が欲しい。就職したい企業が長崎に無いということもよく言われる。
- ・長崎に魅力ある企業もたくさんあるが、うまく発信できていないと思う。
- ・離島では職種が限られているが、職種がないから自分で小さなことから始めることができている。例えばデザイナーとか、デザイナー兼　とか、小さく始めて少しずつ大きくしていける環境があると思う。

【地域とのつながり】

- ・地元のことを知る機会がなくて、長崎には何も無いと思いながら育ってきたので、自然と県外に出た。地元に戻って働き始めて、自分の仕事にもいろいろな人が関わっていることを知った。高校生の時に、働く人と繋がる機会や地元を知る機会が必要だと思う。
- ・小学生を取材した際、遊ぶところや買い物するところがないので県外に出たいという人が多くて驚いた。長崎にも面白い人がたくさんいるのに、そういう人たちと接する機会が無いことをもったいないと思う。まちを発見する機会をみんなで取り組んでいけたらいいと思う。
- ・地元では同世代の仲間が多くない中で、このミーティングでいろんなメンバーとつながる機会があつてとてもよかった。

【情報発信】

- ・SNSで広く外からの情報が入ってくるので、そういう情報と比較すると、長崎は古い、遅れていると感じる。長崎に新しいものがあることを知らせることで、「何も無い」を合言葉にさせない。
- ・身近にいいところがあるという伝え方や、若い人からの発信、県外に出てみて気づいた人からメッセージを出すこともいいと思う。
- ・やみくもの情報発信ではなく、ターゲットと内容の組み合わせが必要。

6. その他

- ・第2回は、7月下旬～8月上旬に開催予定。
- ・会議名称及び第2回テーマは第1回ミーティングの内容を踏まえて検討し決定する。